平成２６年度　第７回保健医療福祉未来図会議　議事録
テーマ「災害復興公営住宅移行期を迎えて～いま、それぞれが何をやらなければならないか～」
日時：平成２６年１０月３日（金）１３：３０～１５：４５
場所：陸前高田市役所　４号棟　第６会議室
参加：人数 43 人
　　　団体 21 団体
資料：下記にアップ
http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakatakaigi.html

１．あいさつ（伊藤健康推進課長）
　7 月～9 月まで３回、ノーマライゼーション～言葉のいらないまちづくりを目指して～をテーマに、皆様に様々な議論を重ねていただいた。
未来図会議でしていただいた議論を含めてアクションプランをとりまとめ、今月中には保健医療福祉介護分野、それ以外の分野も含めて議会で報告、その後市民の皆さんからの意見をいただいていきたい。
　１０月１日より災害公営住宅の入居始まっている。新たな生活環境に移ることから、それの対策が必要となってくることが予想される。想定される課題等について、関係機関と共同しながら取り組みをすすめていきたい。

２．オリエンテーション（地域包括ケアアドバイザー　佐々木　亮平　氏）
　災害復興公営住宅についての情報の共有と、そして今回アクションプランの概要を報告したいと思っていたが、今回までにまとめきれていないところがあるため、次回の報告となる。
　本日は、最初に入居が始まった下和野仮設の現状と、NPO の活動状況と課題について情報共有の場をもち、その後災害公営住宅の今後の課題と対処方法について議論したい。

３．現状報告
（１）陸前高田市保健医療福祉未来図会議の目指すところ
（２）今日（10/4）の未来図会議で議論する内容の確認（地域包括ケアアドバイザー　岩室　紳也　氏）
　第 2 次健康日本 21 にある、「ソーシャルキャピタルの向上」、「地域のつながりの強化」を整えることで健康寿命の延伸、健康格差の縮小になっていくのでは。
　これから災害復興住宅に入るにあたってどれだけ健康寿命を延伸していただける関係づくりをしていくか？⇒早期発見、早期治療も大事だがそもそもの病気を予防することが必要。
　災害復興住宅での孤立化に対しては様々な専門職がアプローチをしていくが、むしろそうならないようにどんなことを市民運動として展開することが大事なのか、がポイントになる。集団に対する運動、ポピュレーションアプローチが大切である。
　今後、移行期で想定される課題として（声が聞こえない、見えない、コミュニティ、経済的不安　等）行政が出来ること、出来ないことは何か？市民が出来ること NPO が出来ることについて議論をいただきたい。

（３）下和野地区災害公営住宅（下和野団地）の現状と今後の見通し（建設課　梅木　住宅推進係長）
　市内では全部で１２カ所の災害公営住宅を予定している。岩手県に６カ所７００戸分の建設をお願いしている。それ以外の部分は陸前高田市で建設する。市役所向かいの栃ヶ沢住宅以外、Ｈ２８年度中に全ての住宅建設完了予定。10 月１日から下和野住宅入居開始している。

何もないところに目立つ建物が建設され、復興のシンボルになる建物のイメージにした。また、防潮堤が復旧されていないため１階部分は居住スペースを作っておらず、２階で２棟の廊下をつなげている。

屋外にコモンスペースがあり、集会所まで行かずとも数人で話せるような空間になっている。

最上階に集会室がある。（5 部屋）万が一の時に中心市街地から避難ができるようになっている。太陽光発電は集会室のコンセント等に使用。停電時、必要最低限の電気は太陽光パネルで補え、エレベーターにも蓄電池が備えられており、２時間程度は使えるようになっている。

屋上にもテラスがあり、屋外にも広く集まれるよう整備をした。火は使用不可。集会所には６５平米の広さの和室もあり。

ピロティには店舗等が入れる整備をしている。ハード整備については建設課が行い、完了したところ。

現在は入居者に対し自治会結成のお手伝いまでは建設課が取り組んでいる。自治会の役割としては、集会室の管理・運営、共用の電気代等の徴収等。他の住宅も順次同じような形で進めていく予定。

物置１世帯１か所。（車のタイヤが横における位）郵便受けは集合タイプを設置。駐車場は 144 台分。車いす使用の部屋の玄関はほぼ段差なし。お風呂は車イス対応タイプ。手すりや浴槽が動くタイプ。バルコニーは段差なしだがサッシあるため少々の支障はある。非常時は NTT 回線を使用してボタンを押せば発信できるようになっている。使用する側が契約すれば使用可能。

◇質疑応答◇

◎集会所の備品について、どういったものを支援していただけるか？

⇒集会所に市が何か備品を置く予定は現在のところない。防災集団移転促進事業等も備品に関しては予定していない。自主防災組織を組織し、組織から防災対策室に申請があれば対応できるとは聞いている。その旨は会長が決定したらお伝えする予定。

◎高齢者が入居した際に部屋について、設備の使い方等わからない方の対応については？

⇒取扱説明書はあるが、わかりやすいよう写真と文字で入居のしおりを作成する予定。

◎車いすは乗り換える想定か、それともタイヤを拭いて上がるような想定か？

⇒広さからすればどちらでも対応可能。

（４）下和野地区災害復興公営住宅内に設置予定している交流サロン（在宅医療介護連携促進事業）の見通しとこれからの地域づくり（長寿社会課　佐藤副主幹）

（同事業在宅医療介護連携コーディネーター　石木幹人先生）

１階ピロティの部分 2 区画を長寿社会課、社会福祉課で確保し、1 区画は相談室、もう 1 区画はサロン、カフェのコーナーとする予定。「市民交流プラザ下和野サロン」として開設。

相談室・・・社会福祉協議会相談員の高田地区担当の方に見守りや相談をお願いする。また、医療介護連携拠点ということで医師、看護師、臨床心理士等の相談員を配置予定。

カフェ・サロン・・・喫茶と軽食を提供、障がいのある方の働く場・職業訓練の場にする。障害施設で作っている食べ物等を提供する。

公営住宅内だけではなく、その周りの地域の見守り活動等に活用していく。年明けくらいにオープン予定。地域の人達が気軽集まれる空間にしたい。

（石木先生）⇒相談室には毎日誰かがいるようにはしたい。私は週１でお邪魔させてもらう。その他は看護師、臨床心理士が対応する予定。

◇質疑応答◇
◎ピロティの商業施設はいつごろからオープン予定か
　⇒現在のところ未定。１～３ヶ月の改装期間を経てオープンとなるので、いずれにしろ年明け以降になるのではないか。
◎相談室には 24 時間体制にはならないか？
　⇒詳細は決まっていないが、日中の対応になる。夜間は恐らく対応は難しい。
◎車いす対応のところは緊急通報装置設置するようだが、高齢者世帯の設置についてはどうか？
　⇒本体を購入し、個人がつける場合には対応は可能である。４～５万はかかる。
　　携帯タイプはある。看護師さんにつながるシステム。認知症の方以外対象。現在仮設住宅の方のみの貸し出しで、公営住宅でも貸し出すかは未定である。以前からあった電話回線が必要となる緊急通報装置は貸し出し可能。携帯電話では対応不可。

（５）陸前高田市 NPO の活動状況と課題
　　（まちづくり協働センター　　統括コーディネーター　三浦まり江　氏）
　陸前高田市まちづくりプラットフォームで復興支援とまちづくりに取り組む団体のネットワークを作っている。現在時点で登録団体は 73 団体となっており、毎月１回情報共有・意見交換を行っている。
　まちづくりプラットフォームで抽出された課題や NPO の抱える課題について、緊急期と移行期の課題の違いについて。
　また、陸前高田市の復興支援・まちづくりに携わるうえでの活動のこれから（別添資料参照）

◇質疑応答◇
◎具体的にうまくいった事例があれば教えていただきたい。
　⇒ネットワーク連絡会という名前で震災支援していた際、支援の多いところ、少ないところを均一化するところについては、震災直後は実践できたかと感じている。

４、グループディスカッション
「災害公営住宅で想定される課題」と「対処法」
14：40～15：10　　発表 15：10～15：40

５、まとめ
行政が出来ることはきっかけづくり、環境整備。出来ないことは活動を広げること。雇用の場作り、お金の循環等については NPO ができるか。市民が出来ることは「はまかだ」。
　誰が、どんな役割をするかについては次回以降議論していきたい。

６、１０月１日の人事異動のお知らせ（尾形健康推進課長補佐）
　１０月１日より、税務課から健康推進課に課長補佐として尾形良一課長補佐が異動になりました。
　「午前中に新潟の柏崎市からお褒めのお電話あった。陸前高田で Dr.が被災者の方を訪問して、どんどん元気になっていくというのを海外の NHK で放送していた。いい活動をしているとの内容。全国、世界に紹介されているので、支援者の皆さまの活動に感謝するとともにこういったことをますます充実させて陸前高田を盛り上げていければと思います。」
◇次回１１月１４日（金）
災害公営住宅に実際に行って会議を開く予定（仮）。後程メーリングリストにてご案内する。